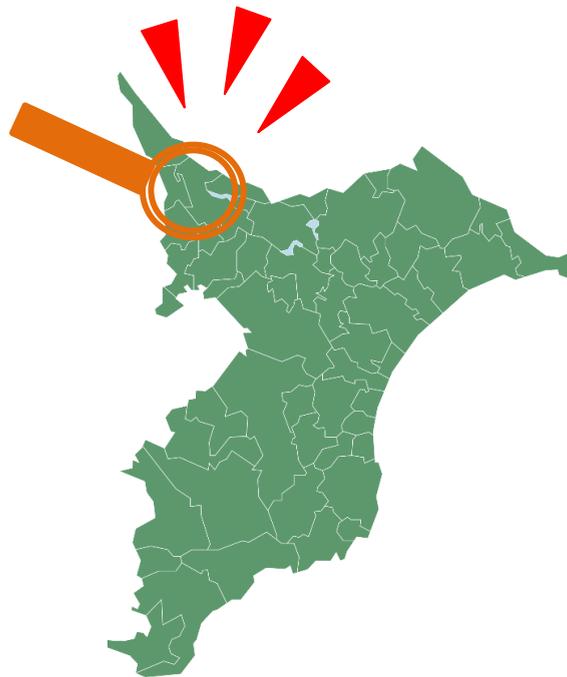


2023・7

柏の景気情報

令和5（2023）年7月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年7月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

回答期間:令和5年7月19日～令和5年8月3日 調査対象: 柏市内141事業所及び組合にヒアリング、回答数87

電気代やガソリン代高騰の影響大。一部では進捗見られるが、労務費・販管費の上昇分までの十分な価格転嫁には至らず

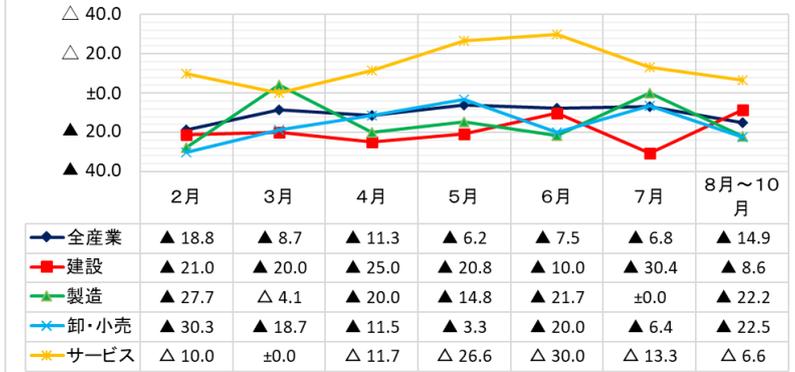
7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.8(前月水準▲7.5)となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小した。

建設・製造業では、度重なるコスト増に価格転嫁が追いつかず、収益確保が厳しい状況。職人や技術者の人手不足は避けられず、長期的な育成にも力を入れるべく新卒の採用活動にも積極的な企業が増加傾向。

卸・小売やサービス業では、夏休み需要を期待する声が聞かれる一方で、物価高による日用品等の買い控えへの懸念は継続しており慎重な見方が続いている。

コロナ融資の返済が始まり、資金繰りに不安があるという声も聞かれた。

柏の景気情報・産業別業況DI



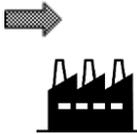
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「梅雨の時期、雨が少なく仕事が捗るといきや、暑さで休憩時間が多くなり仕事の進みが遅い。しかし屋根がない現場での仕事では無理が言えず…。熱中症にならずに事務所に帰ってきてくれることで良しとしている」とび「売上は上がっているが、利益率は下がっているのが現状。材料費は一時の爆上りは落ち着いたものの便乗値上げの流れは続いている。仕事があるのに現場を見る技術者がいないため、仕事を断る(断られる)ことがあるのは非常にもったいない」(塗装工事業)「d払いや楽天payなどの決済方法も使用可能にした」(畳工事請負・畳製造販売業)



製造業

「円安に加えて、原材料・市販購入品・エネルギー等の購入価格が原価を押し上げており、売上は高くても利益が出しづらい状況(その他の機械・同部品製造業)「売上はコロナ禍より増加しているが、原材料等高止まりで収益向上はしていない。先の売上や利益の状況の見通しが分かりづらいため、日ごろからコスト低減でDX化を推進。技術ありのメーカーのため、開発部門には毎年新卒採用を含めて投資推進している」(その他の鉄鋼業)「コロナが5類に引き下げられて以降、売上は伸び始めているが、エネルギー価格や原材料費の高騰に相当する価格転嫁が出来ていないため、収益が伸びず。今後更にコストアップが想定され、価格に如何に早く反映するかが課題」(自動車付属品製造業)



卸・小売業

「梱包資材費、人件費の増加によるコスト負担増は継続(菓子・パン小売業)「主な仕入商品の原価が上昇し、追い打ちをかけるようにガソリン代や運送品・その他消耗品等、すべての経費が上昇。その中である程度値上げした商品が販売できておらず厳しい状態が続いている」(食料卸売業)「各種イベント復活や天候も後押しし、アパレル、旅行関連は引き続き好調。食関連は猛暑の影響でアイスクリーム等の夏商材は好調も、自家需要商材については、節約による鈍化傾向が継続(百貨店)「インバウンド関連業態は良い。ゼロゼロ融資の返済が始まる今年は、飛ぶ会社の増加も見込まれ、流れ弾倒産や計画倒産にも注視が必要」(貿易業)



サービス業

「仕入、修繕費、エネルギー価格の高騰により業績が悪化する見込み。最近ではインボイス制度、電子帳簿保存法の対応で事務スタッフが疲弊している」(ゴルフ練習場・ゴルフスクール運営)「連日の猛暑や土地建築費の上昇等により、一般のお客様から問合せや来客数も減少、それに伴い成約件数も減少している」(不動産管理業)「人手不足の影響で飲食店の経営への影響大」(日本料理)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲6.8に対し、「CCI-LOBO」が▲9.8で、柏のほうがマイナス幅が3.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.8	 ▲ 30.4	 ± 0.0	 ▲ 6.4	 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 9.8	 ▲ 19.2	 ▲ 4.1	 ▲ 18.5	 2.4
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 8.0	 ▲ 21.7	 ▲ 11.1	 16.1	 40.0
CCI-LOBO	 4.0	 ▲ 14.4	 9.2	 ▲ 1.7	 16.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.3	 ▲ 39.1	 ▲ 11.1	 ▲ 6.4	 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 14.2	 ▲ 26.6	 ▲ 12.1	 ▲ 16.7	 ▲ 5.3
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 74.7	 ▲ 39.1	 ▲ 72.2	 ▲ 87.0	 ▲ 53.3
CCI-LOBO	 ▲ 67.1	 ▲ 75.0	 ▲ 68.4	 ▲ 69.7	 ▲ 63.2
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.9	 26.0	 5.5	 19.3	 33.3
CCI-LOBO	 21.1	 32.7	 12.7	 15.3	 30.5
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 2.2	 ▲ 13.0	 ± 0.0	 ▲ 3.2	 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 11.8	 ▲ 6.7	 ▲ 13.6	 ▲ 18.5	 ▲ 8.7

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2023年7月13日～20日

調査対象：全国の329商工会議所が2,497企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、持ち直しの一服感が続き、ほぼ横ばい。先行きは、期待感伺えるもコスト増への懸念続く

7月の全産業合計の業況DIは、▲9.8と前月比から▲0.9ポイントの悪化。

製造業では、国内の設備投資が堅調に推移するほか、挽回生産が進む自動車関連が牽引し、改善した。一方で、建設業では、建設資材やエネルギー価格の高止まりによるコスト負担増で悪化となった。また、小売業・サービス業では、個人消費に一服感が見られる中、天候不順による客足の減少が重なり、悪化した。卸売業でも、輸送費の高騰に加え、小売業・サービス業からの引き合いが減少し、悪化した。経済活動は回復基調が続く、価格転嫁も一部では進捗が見られるが、労務費・販管費の上昇分までの十分な価格転嫁は行えていない。また、需要増に伴う人手不足も深刻化しており、中小企業の業況は、ほぼ横ばいで足踏みしている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲12.5(今月比▲2.7ポイント)と悪化を見込む。

夏休み需要の本格化を控え、個人消費やインバウンド需要のさらなる拡大への期待感が伺える。一方、需要増に対する人手不足や、物価高による日用品等の買い控えへの懸念は継続している。また、政府の激変緩和策の段階的縮小でエネルギー価格は上昇傾向にあり、一層のコスト増が危惧されている。海外経済の鈍化による外需の停滞も懸念されており、中小企業の先行きは、慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業は改善、建設業、卸売業、小売業、サービス業は悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「事業承継を契機に、会社全体の若返りを図るべく、中堅の即戦力人材や新卒の採用を重点的に実施。あわせて働き方改革に向けて労働時間の管理を強化する等、生産性を高めていくよう改善を図っている」(大工工事業)

「2024年問題への対応が本格化する中、具体的な対応が追いついていない。他社・他業種の動向を参考に残業規制等への取組を進めていく」(一般工事業)

資材の受注が増加している。一方で、物価高の影響で日用品や内食関連の受注は低下しており、総じてみると厳しい状況が続いている」(包装資材卸売業)

「天候不順の影響で供給・価格が安定しない品目が多発しており、売上が安定しない状況が続いている」(農畜産水産物卸売業)

【製造業】「収益が改善してきたため、生産性向上に向けた情報端末を導入し、IT化を実施。今後は情報管理に向けた社内教育や、関連資格の取得を奨励し、機密情報に関する社員の意識向上に努める」(工業用プラスチック製品製造業)

「受注数の増加に加え、材料供給も安定しており、売上は伸び始めている。エネルギー価格の高騰による収益圧迫が課題である」(自動車・付属品製造業)

【卸売業】「経済活動が回復したことで、観光需要も増加しており、土産品関連の包装」

【小売業】「仕入価格の上昇に加え、光熱費も高騰しており、コストは増加が続いているが、物価高で消費者の購買意欲が低下している中で販売価格に転嫁することは難しい。また、連日の猛暑で客足も減少しており、来客数も客単価も落ち込んでいる」(総合スーパー)

「輸送費が上昇しており、コストが増加している。効率的な配送計画を実施し、省エネに努めていく」(家具小売業)

【サービス業】「近隣のイベントも再開され、国内旅行需要の回復でほぼ満室の稼働となっている。夏休みも本格的にスタートするため、さらなる売上増加を期待している。一方で、従業員は全体的に不足しているため、採用を進めている」

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲19.4	▲31.9	▲18.4	▲16.4	▲25.9	▲8.6
3月	▲14.8	▲24.5	▲18.9	▲22.4	▲19.5	△2.8
4月	▲11.1	▲23.1	▲13.9	▲15.0	▲15.9	△5.6
5月	▲6.2	▲17.0	▲9.2	▲11.0	▲13.8	△11.9
6月	▲8.9	▲17.8	▲8.8	▲13.2	▲16.7	△4.7
7月	▲9.8	▲19.2	▲4.1	▲20.9	▲18.5	△2.4
見通し	▲12.5	▲15.7	▲10.5	▲20.4	▲20.4	△2.4

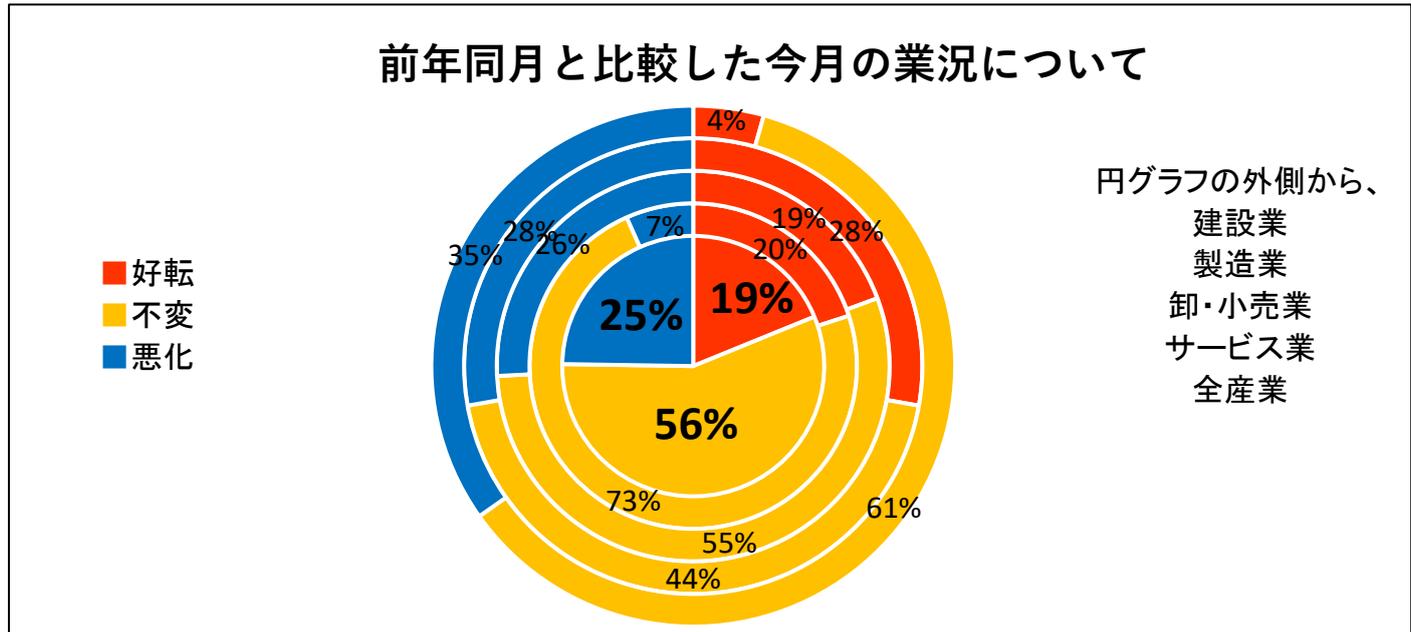
が、進捗が良くない」(宿泊業)

「観光需要が回復する中で、働き方改革への対応が課題。2024年問題への対応として、労働時間管理システムを導入した」(一般乗用旅客自動車運送業)

令和5年（2023年）7月の動向

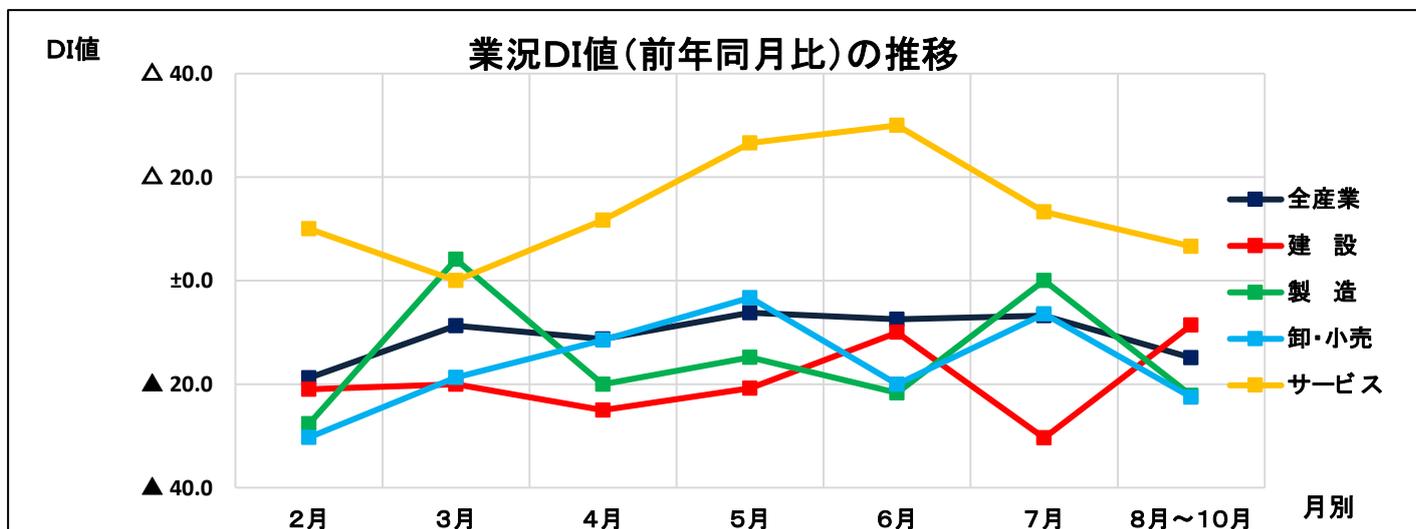
【業況について】

- 7月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲6.8（前月水準▲7.5）となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（8月から10月）の先行き見通しについては、全産業では、▲14.9（前月水準▲16.1）となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小する見通しである。



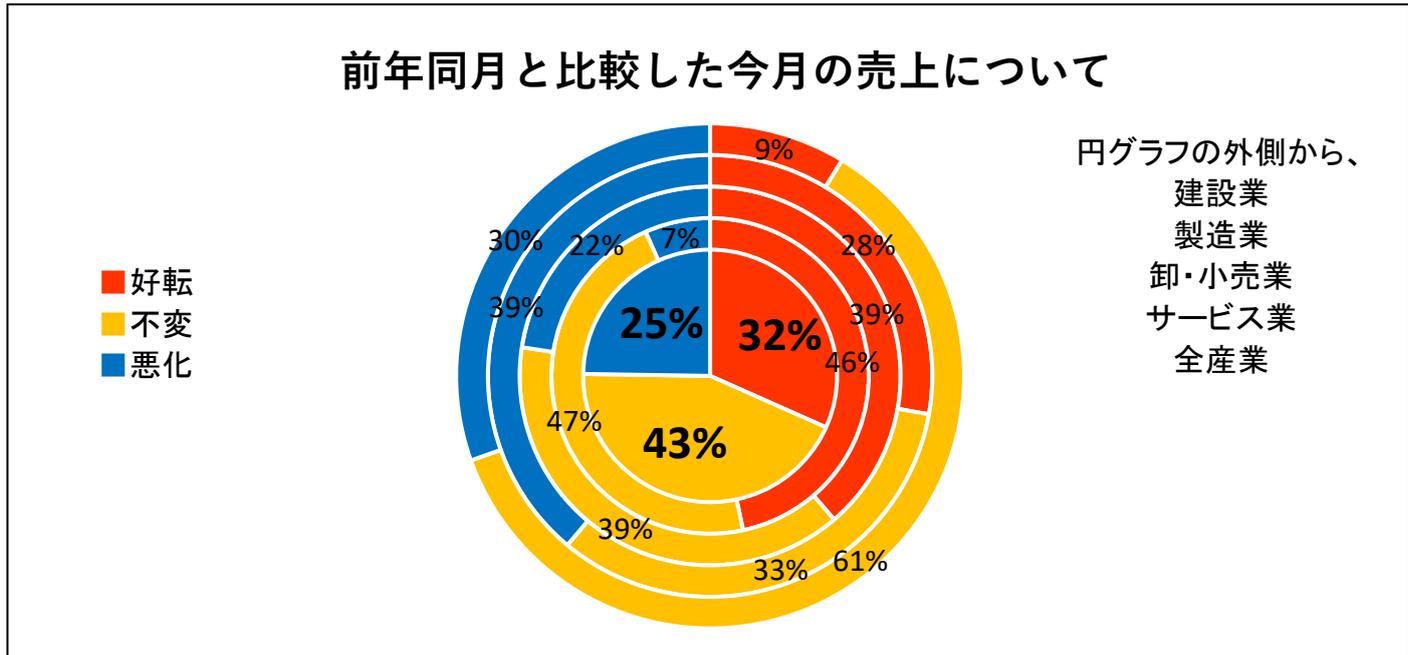
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月～10月（7月～9月）	
全産業	▲18.8	▲8.7	▲11.3	▲6.2	▲7.5	▲6.8	▲14.9	▲16.1
建設	▲21.0	▲20.0	▲25.0	▲20.8	▲10.0	▲30.4	▲8.6	▲10.0
製造	▲27.7	△4.1	▲20.0	▲14.8	▲21.7	±0.0	▲22.2	▲30.4
卸・小売	▲30.3	▲18.7	▲11.5	▲3.3	▲20.0	▲6.4	▲22.5	▲23.3
サービス	△10.0	±0.0	△11.7	△26.6	△30.0	△13.3	△6.6	△5.0



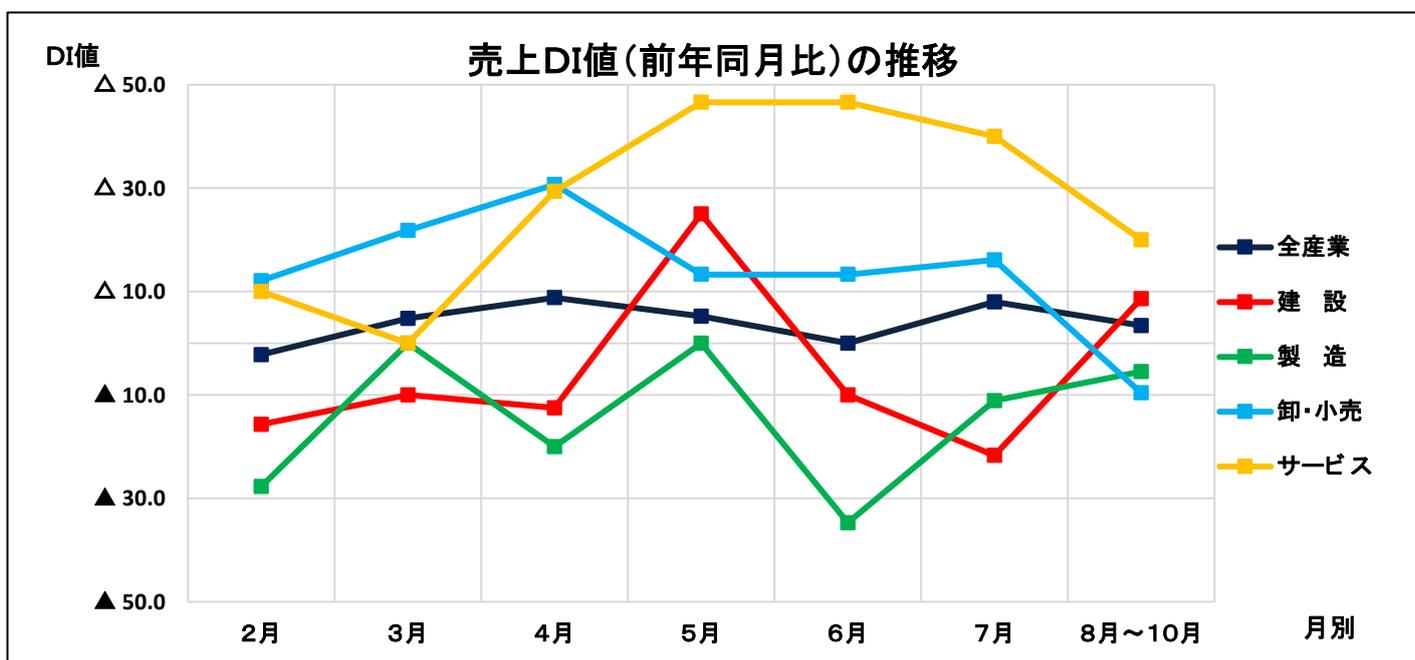
【売上について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.0(前月水準±0.0)となり、プラス幅が8.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△3.4(前月水準△5.3)となり、プラス幅が8.7ポイント拡大した。



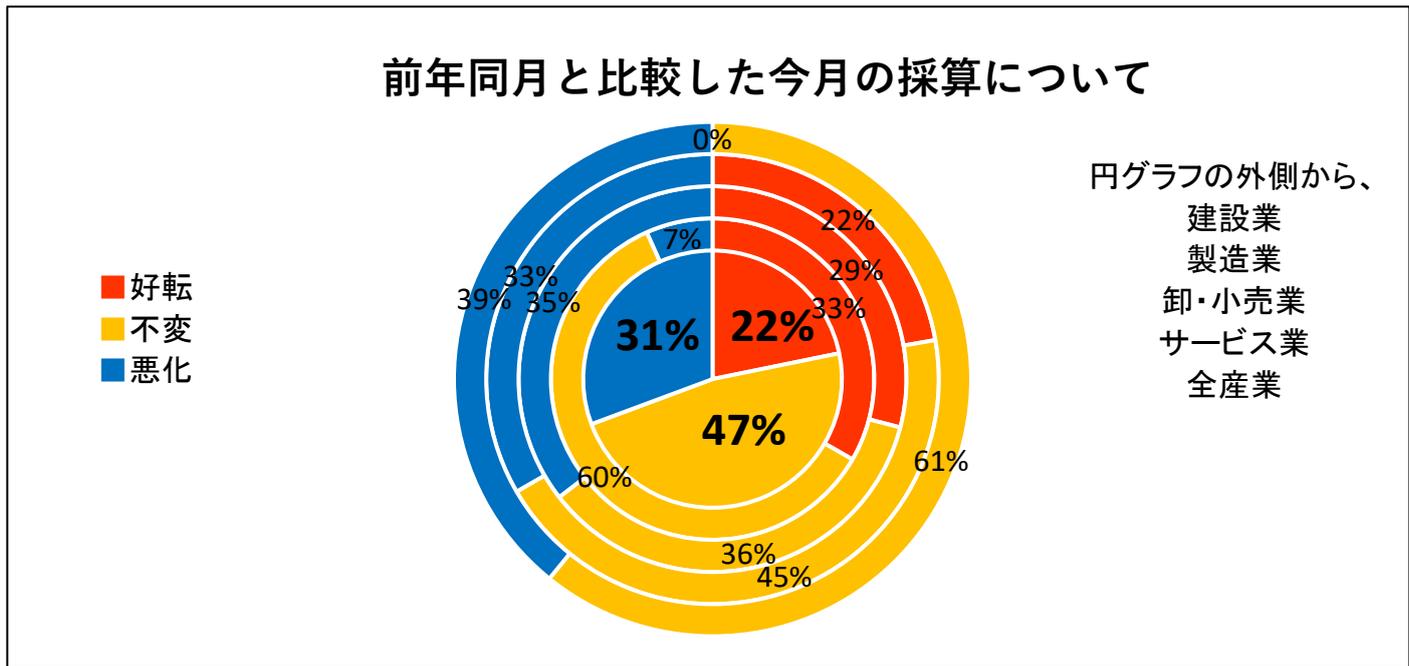
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和5年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲2.2	△4.8	△8.8	△5.2	±0.0	△8.0	△3.4(▲5.3)
建設	▲15.7	▲10.0	▲12.5	△25.0	▲10.0	▲21.7	△8.6(▲10.0)
製造	▲27.7	±0.0	▲20.0	±0.0	▲34.7	▲11.1	▲5.5(▲21.7)
卸・小売	△12.1	△21.8	△30.7	△13.3	△13.3	△16.1	▲9.6(▲3.3)
サービス	△10.0	±0.0	△29.4	△46.6	△46.6	△40.0	△20.0(△15.0)



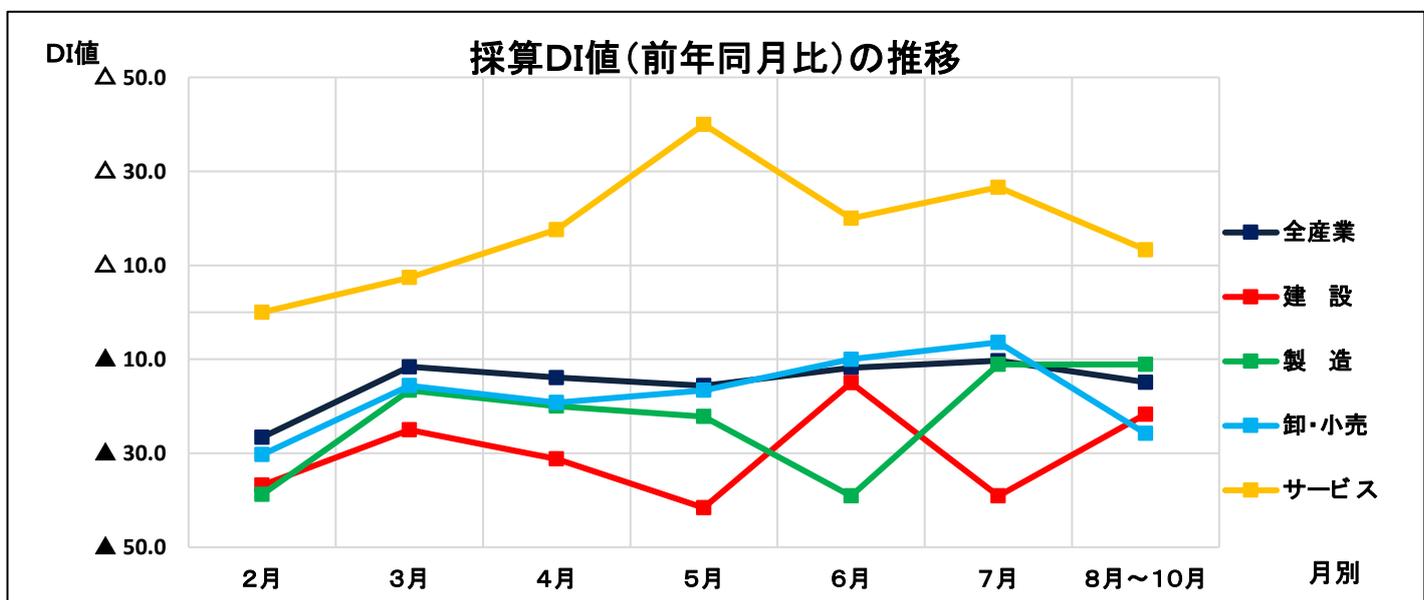
【採算について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.3 (前月水準▲11.8) となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.9 (前月水準▲15.0) であり、マイナス幅が0.1ポイント縮小する見通しである。



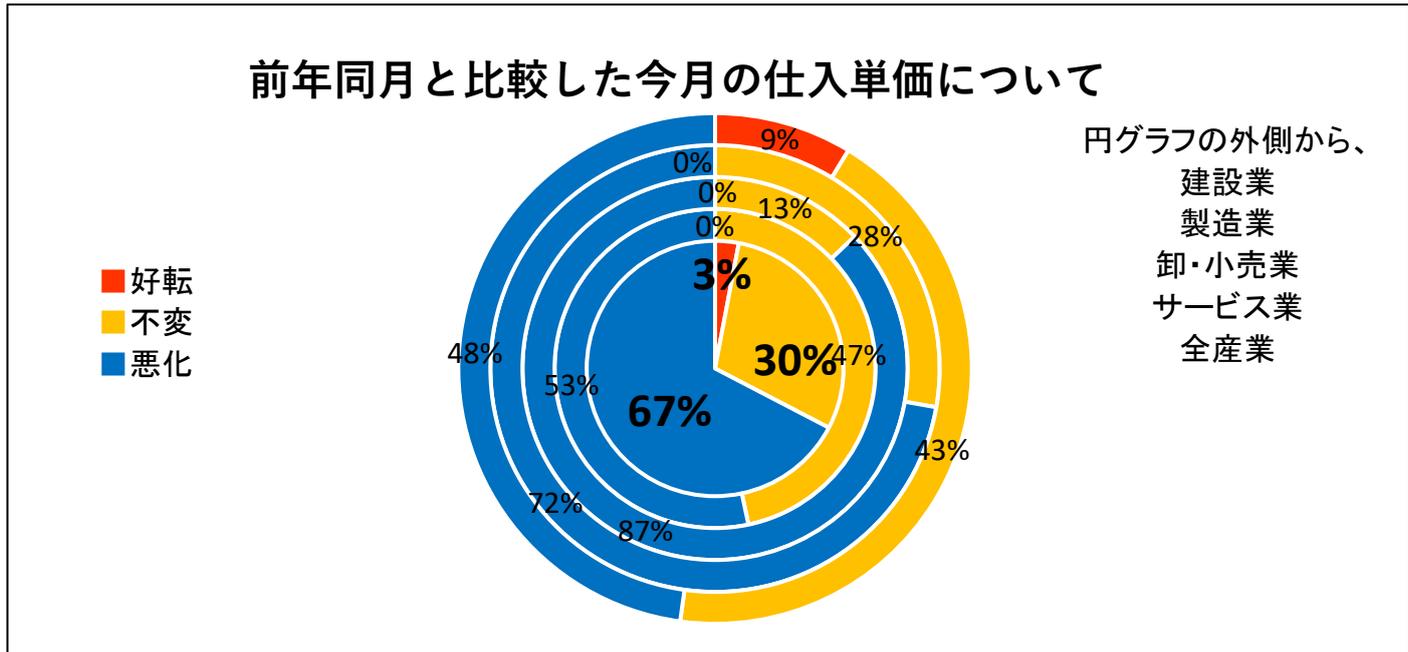
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)
全産業	▲26.6	▲11.6	▲13.9	▲15.6	▲11.8	▲10.3	▲14.9 (▲15.0)
建設	▲36.8	▲25.0	▲31.2	▲41.6	▲15.0	▲39.1	▲21.7 (▲5.0)
製造	▲38.8	▲16.6	▲20.0	▲22.2	▲39.1	▲11.1	▲11.1 (▲26.0)
卸・小売	▲30.3	▲15.6	▲19.2	▲16.6	▲10.0	▲6.4	▲25.8 (▲26.6)
サービス	±0.0	△7.4	△17.6	△40.0	△20.0	△26.6	△13.3 (△5.0)



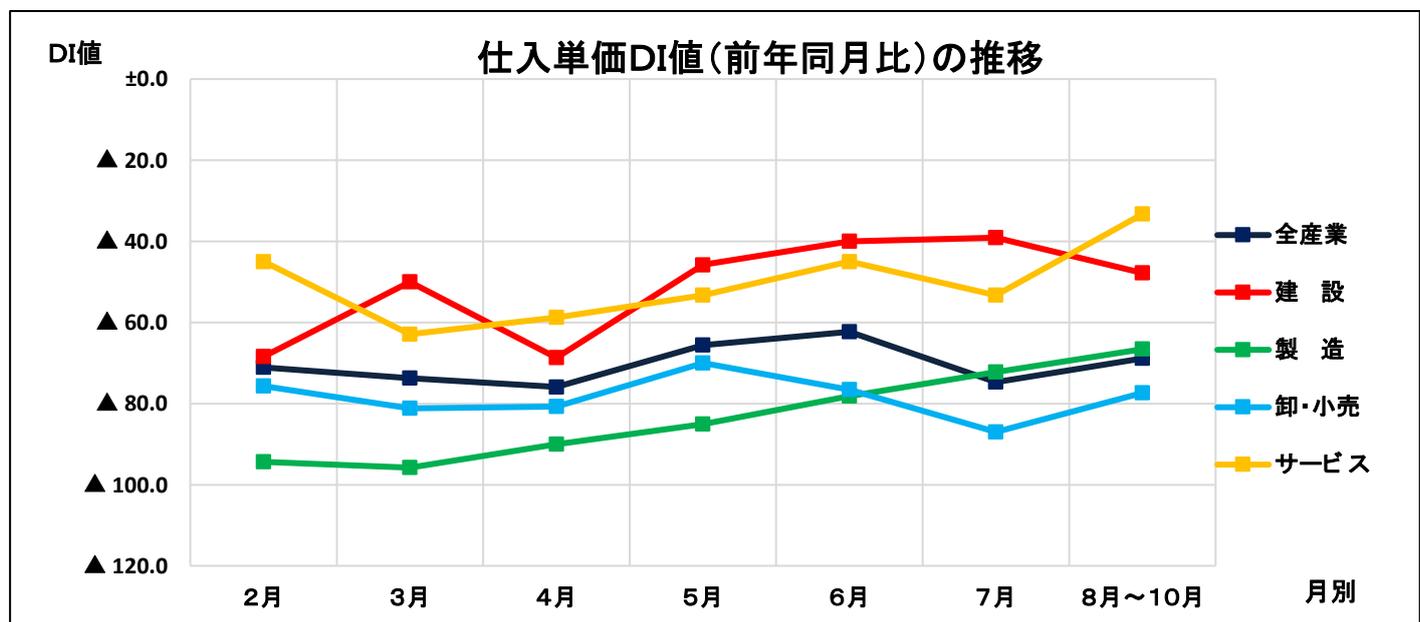
【仕入単価について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲74.7(前月水準▲62.3)となり、マイナス幅が12.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲68.9(前月水準▲52.6)となり、マイナス幅が16.3ポイント拡大する見通しである。



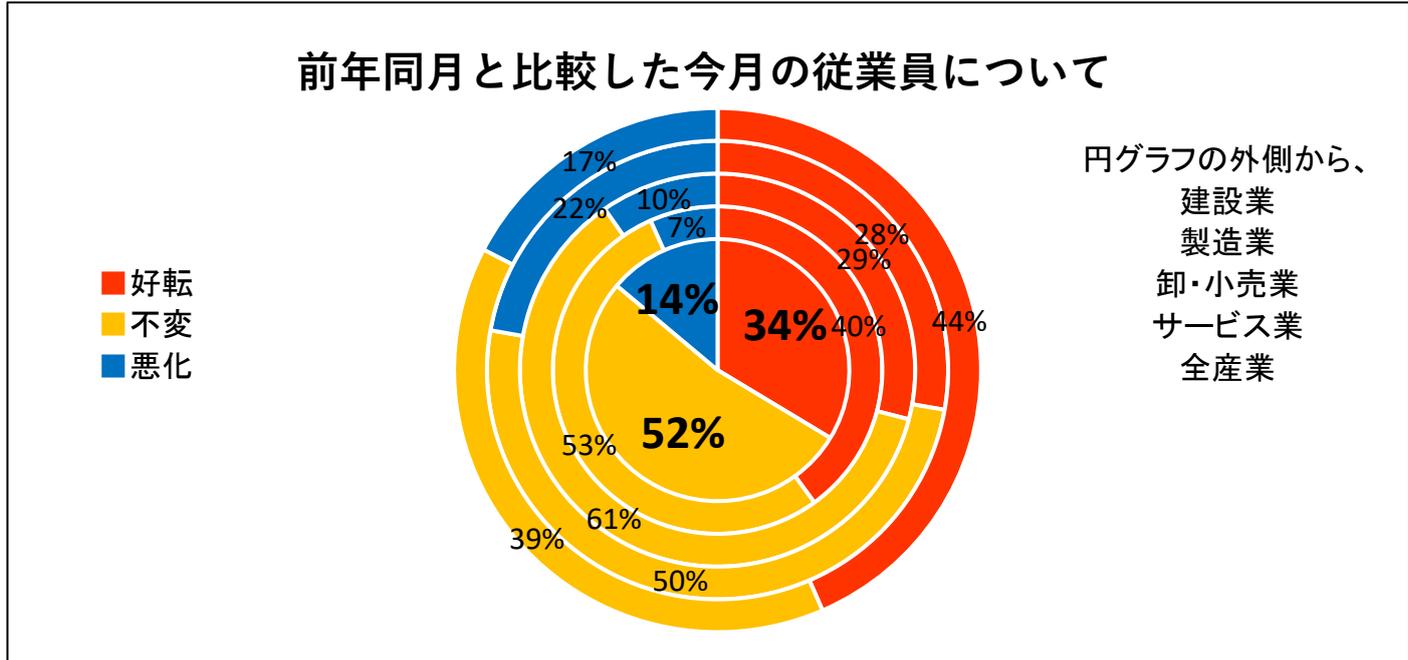
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和5年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲71.1	▲73.7	▲75.9	▲65.6	▲62.3	▲74.7	▲68.9(▲52.6)
建設	▲68.4	▲50.0	▲68.7	▲45.8	▲40.0	▲39.1	▲47.8(▲40.0)
製造	▲94.4	▲95.8	▲90.0	▲85.1	▲78.2	▲72.2	▲66.6(▲65.2)
卸・小売	▲75.7	▲81.2	▲80.7	▲70.0	▲76.6	▲87.0	▲77.4(▲63.3)
サービス	▲45.0	▲62.9	▲58.8	▲53.3	▲45.0	▲53.3	▲33.3(▲35.0)



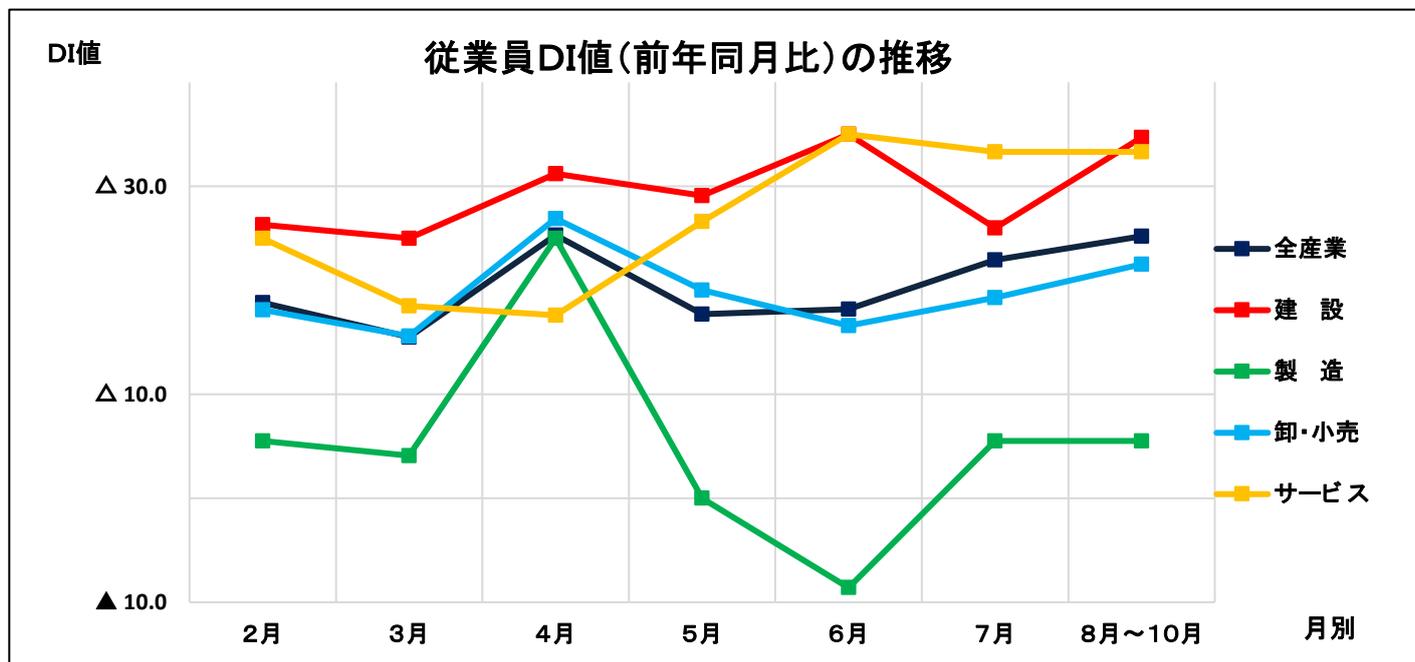
【従業員について】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22.9 (前月水準△18.2) となり、プラス幅が4.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.2 (前月水準△17.2) となり、プラス幅が8.0ポイント拡大する見通しである。



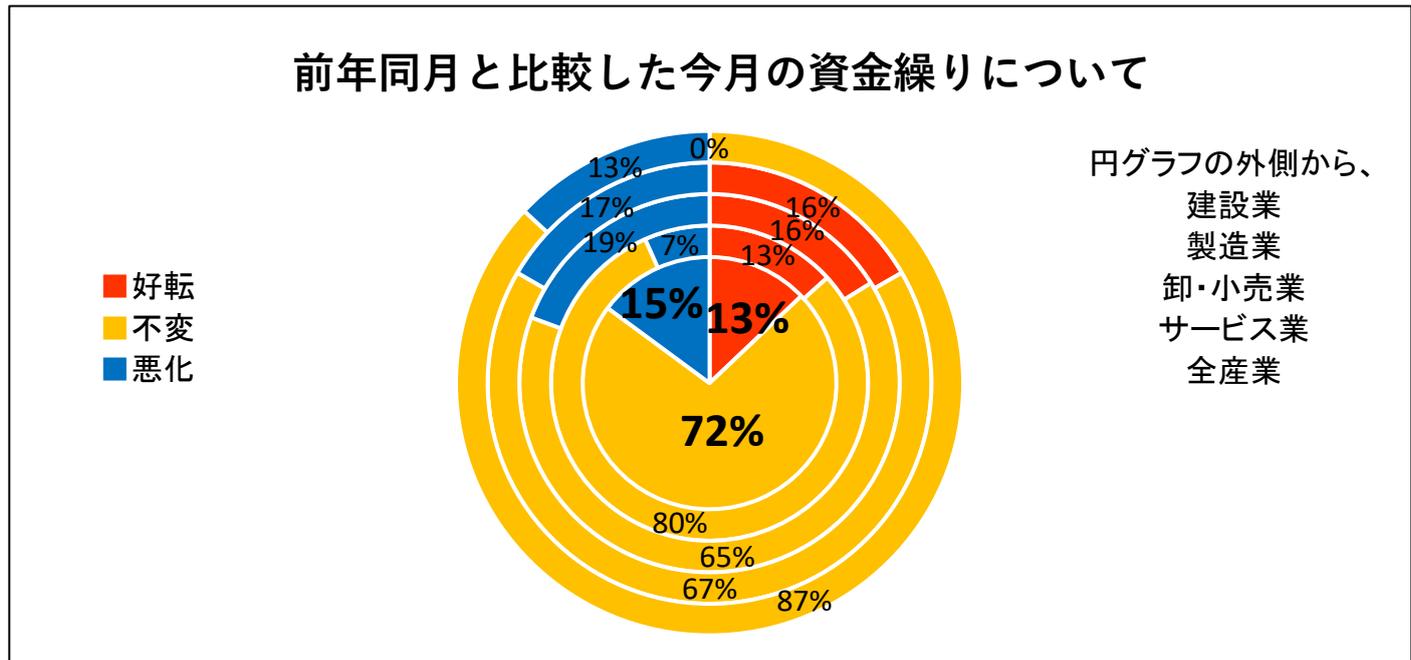
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)
全産業	△18.8	△15.5	△25.3	△17.7	△18.2	△22.9	△25.2 (△17.2)
建設	△26.3	△25.0	△31.2	△29.1	△35.0	△26.0	△34.7 (△30.0)
製造	△5.5	△4.1	△25.0	±0.0	▲8.6	△5.5	△5.5 (▲8.6)
卸・小売	△18.1	△15.6	△26.9	△20.0	△16.6	△19.3	△22.5 (△16.6)
サービス	△25.0	△18.5	△17.6	△26.6	△35.0	△33.3	△33.3 (△35.0)



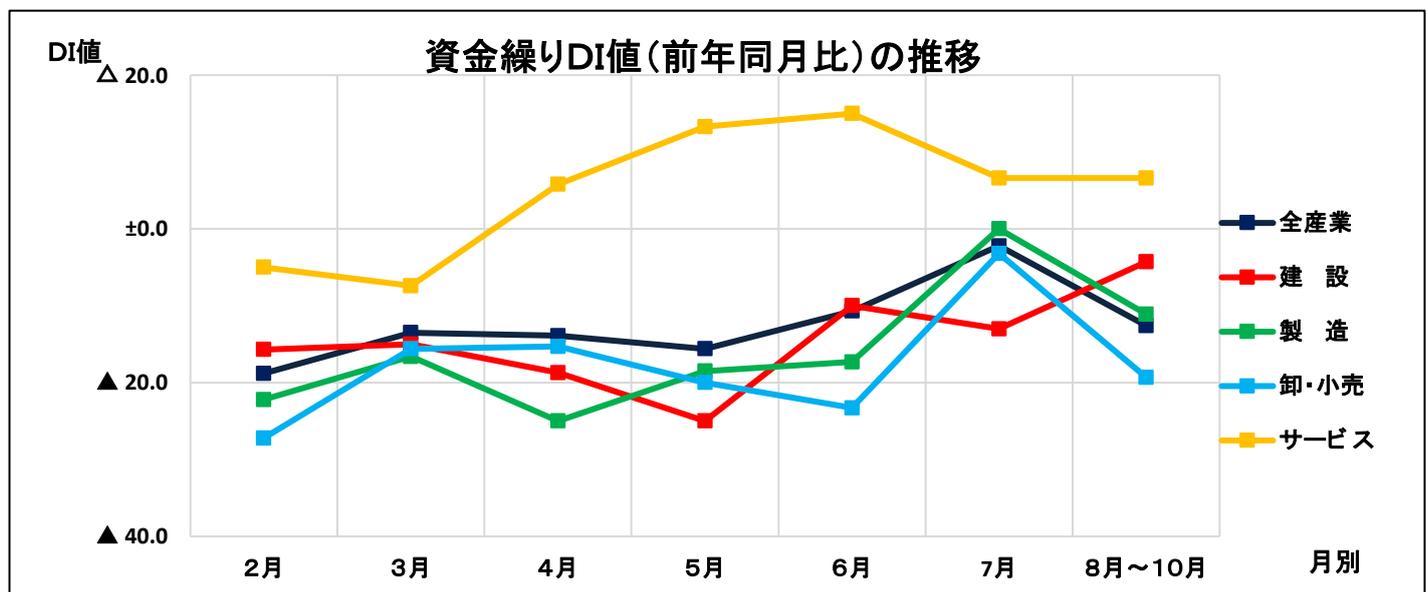
【資金繰りについて】

- 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.2(前月水準▲10.7)となり、マイナス幅が8.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲16.1)となり、マイナス幅が3.5ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)
全産業	▲18.8	▲13.5	▲13.9	▲15.6	▲10.7	▲2.2	▲12.6(▲16.1)
建設	▲15.7	▲15.0	▲18.7	▲25.0	▲10.0	▲13.0	▲4.3(▲5.0)
製造	▲22.2	▲16.6	▲25.0	▲18.5	▲17.3	±0.0	▲11.1(▲34.7)
卸・小売	▲27.2	▲15.6	▲15.3	▲20.0	▲23.3	▲3.2	▲19.3(▲26.6)
サービス	▲5.0	▲7.4	△5.8	△13.3	△15.0	△6.6	△6.6(△10.0)

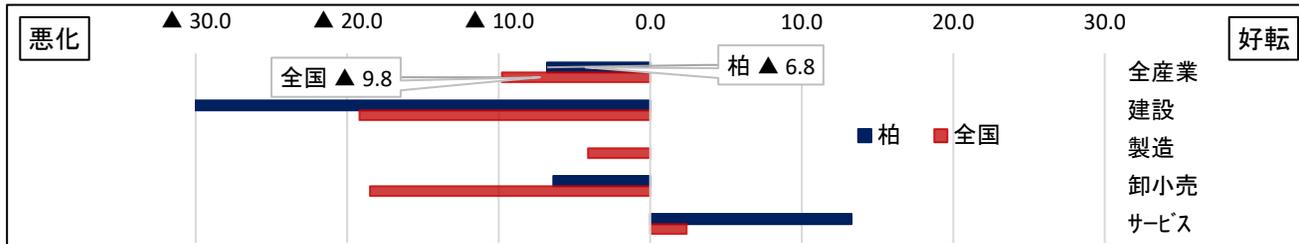


全国（CCI-LOBO）との比較

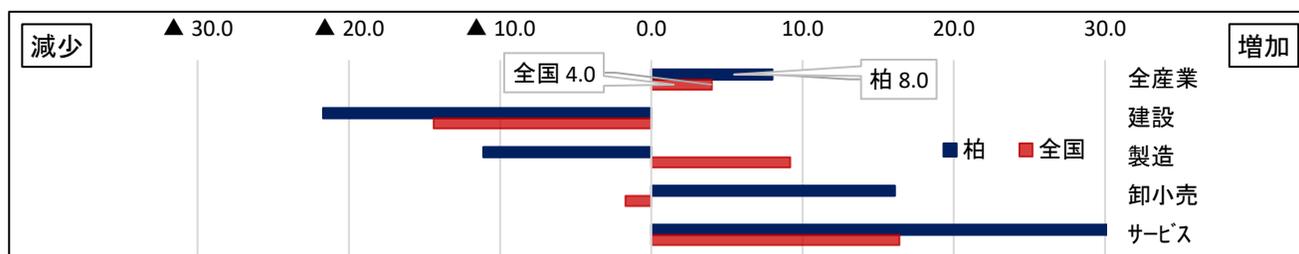
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

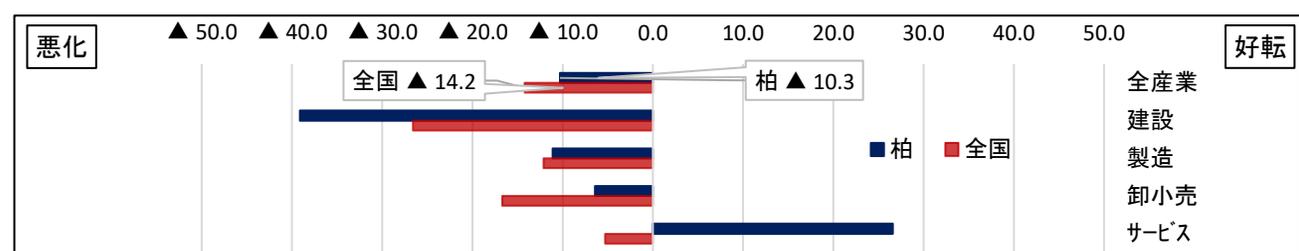
【業況D I】



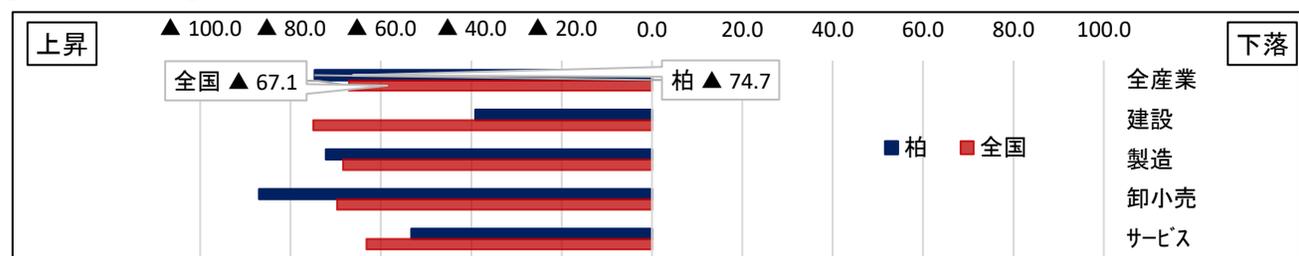
【売上D I】



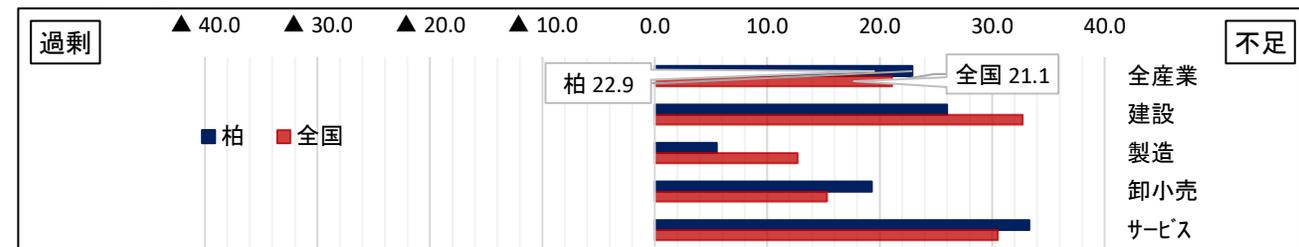
【採算D I】



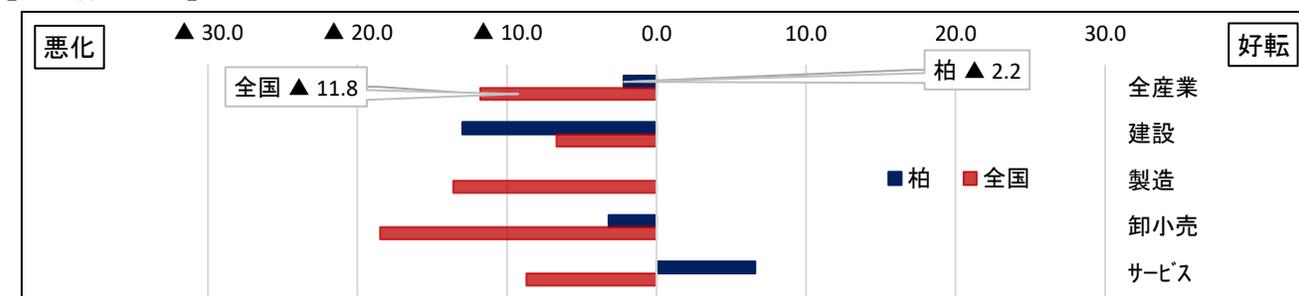
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	コロナ融資の返済が始まり、資金繰りが不安	一般土木建築工事業
	豊縁・豊縁小物・バッグ販売についてd払いや楽天payも使用可能にした	豊工事請負・豊製造販売業
	売上は上がっているが、利益率は下がっているのが現状。材料費は一時の爆上りは落ち着いたものの便乗値上げの流れは続いている。 仕事があるのに現場を見る技術者がいないため、仕事を断る(断られる)ことがあるのは非常にもったいない。現場監督の紹介をしてほしい。	塗装工事業
	梅雨の時期、雨が少なく仕事が捗ると思いきや、暑さで休憩が多くなり仕事の進みが悪い。 屋根がない現場での仕事では無理が言えず、熱中症にならずに事務所に帰ってきてくれるだけで良しとするしかない。	とび
製造業	コロナが5月に第5類に引き下げられて以降、売り上げは伸び始めているが、エネルギー価格や原材料費の高騰に相当する価格転嫁が出来ていない為、収益が伸びていない。これから更にコストアップが想定されるが、価格に如何に早く反映するかが課題となってきた。	自動車付属品製造業
	コロナ5類以降でも化粧品容器の受注は低迷したままだが、担当者や企画部の人的交流が活発になってきている。確たるエビデンスはないがそれだけでも前向きにはいられる。医療品容器に関してはコロナ禍よりも新企画、生産共に動きは活発である。	プラスチック加工
	半導体市場が停滞の状況続く。 スピード・人材が重要キーワードで、働き方改革・賃上げ・SDGs・材料中心に仕入高騰、ますますデジタル化を推進、生産性向上に繋げなければならない。	金属素形材製品製造業
	円安に加えて、原材料、市販購入品、エネルギー等の購入価格が原価を押し上げており、売上は高くても利益が出しづらい状況。	その他の機械・同部品製造業
	先の売上/利益の状況の見通しが分かりづらいため、日ごろからコスト低減でDX化を推進。 技術ありのメーカーのため、開発部門には毎年新卒採用を含めて投資推進している。 売上はコロナ禍より増加しているが、原材料等高止まりで、収益向上はしていない。	その他の鉄鋼業
	7月の売上は昨年を下回ったが仕入を抑えることで利益確保したい。 工場屋根に太陽光パネル設置した。 電気代と二酸化炭素の排出の削減を期待する。	金属製品
梱包資材費、人件費の増加によるコスト負担増は継続	菓子・パン小売業	

【業種別】 業界内トピックス

卸 ・ 小 売 業	<p>予想通りインバウンド関連業態はかなり良いと思われるが、インフレの影響を受ける業態に関しては、今後相当厳しくなるとと思われる。ゼロゼロ融資の返済が始まる今年は、飛ぶ会社の増加も見込まれ、流れ弾倒産や計画倒産にも注視が必要になっている。ゼロゼロ融資の返済期間延長も、寝る間を惜しんで業績が回復した会社は対象外となっている。</p>	貿易業
	<p>値上げの影響で頻度品は価格に対しての反応が顕著となっている。依然として外出・旅行関連の商品は好調。土用の丑の日のうなぎは柏まつりと重なり予約数も例年より少ない。</p>	大型小売店
	<p>各種イベント復活や天候も後押しし、アパレル、旅行関連は引続き好調。食関連は猛暑の影響でアイスクリーム等の夏商材は好調も、自家需要商材については、儉約による鈍化傾向が継続。</p>	百貨店
	<p>7月に入ってからの異常な猛暑に売上げ減。 光熱費の高騰も相まって厳しい状況が続く予想。</p>	洋菓子店
	<p>梅雨期間、雨の影響はなかったが、7月後半は暑さの影響からなのか人出が少なかった</p>	その他の各種商品小売業
	<p>主な仕入商品の原価が上昇している中で、追い打ちをかけるようにガソリン代、運送品、その他消耗品等、すべての経費が上昇している中である程度値上げした商品が販売できていない。非常に厳しい状態が続いている。</p>	食料卸売業
サ ー ビ ス 業	<p>前年はコロナ特需にて、EC事業のお客様の伸びがそのまま業績を押し上げてくれたが、今年はコロナ禍も明け、中途半端にゆっくりと以前に戻ろうとしている為、倉庫事業にて値上げも上手く行かず苦戦をしている状況。少しずつお客様のご理解を頂いている。</p>	倉庫事業
	<p>仕入、修繕費、エネルギー価格の高騰により業績が悪化する見込み。最近ではインボイス制度、電子帳簿保存法の対応で事務スタッフが疲弊している。</p>	ゴルフ練習場・ゴルフスクール運営
	<p>中々、厳しい状況が続くそう、</p>	ソフトウェア業
	<p>人手不足の影響で飲食店の経営への影響大</p>	日本料理
	<p>夏期講習のキャンペーンを行っているが、新規の問合せ件数がコロナ前の水準に戻ってきた。在塾生の夏期講習の受講率も予想以上に高い。</p>	学習塾
	<p>市のそごう跡地購入はまだしも東口3棟建て替えをいきなり発表するのは営業妨害以外の何物でもない。</p>	不動産賃貸業
	<p>近隣の住宅価格の高騰は一般サラリーマンの取得意欲を欠く域に到達していると考えています。</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>連日の猛暑や土地建築費の上昇等により、一般のお客様から問い合わせや来客数も減少しており、それに伴い成約件数も減少している。 しばらくはこの状況が継続しそうな気がする。</p>	不動産管理業

調査要領

回答期間

令和5年7月19日 ~ 令和5年8月3日

調査対象

柏市内141業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	141	87	61.7%
建設	31	23	74.2%
製造	35	18	51.4%
卸・小売	42	31	73.8%
サービス	33	15	45.5%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				